

Close up 1

市の決算概要をお知らせします

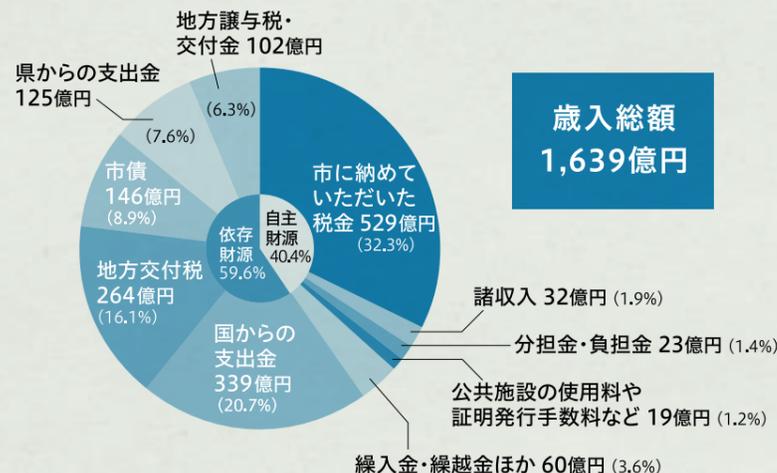
平成29年度は、前年度に比べると歳入総額は約1億4千万円の減、歳出総額は約8千万円の減となりました。歳入では、市税や基金繰入金などの自主財源が約13億4千万円の減、国庫支出

金や地方交付税などの依存財源が約12億円の増となりました。歳出は、幼児や高齢者、生活保護者などへの福祉サービスや借金の返済など、削減が難しい経費が大半を占めています。

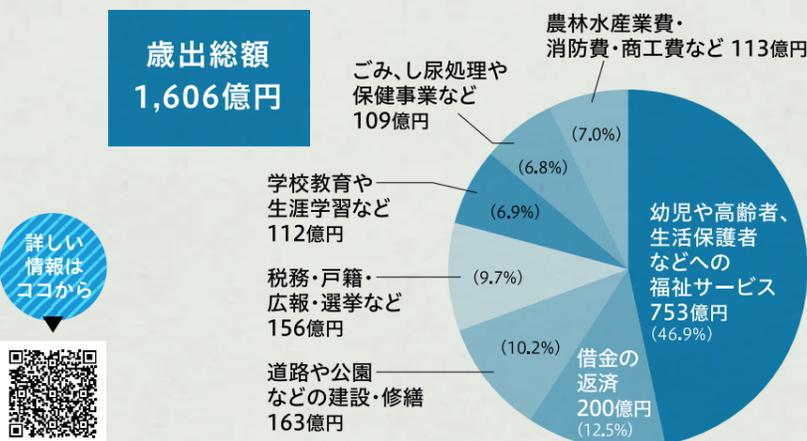
市では毎年、皆さんが納めた税金などがどのように使われているかを公表しています。平成29年度一般会計と特別会計、企業会計の決算の概要をお知らせします。

問  
財政課  
☎21-1723  
FAX21-1522

◎ 一般会計 ※数字は端数処理をしており、数値に整合しない部分があります。



歳出総額 1,606億円



◎ 特別会計 (単位:億円)

会計名	歳入決算額	歳出決算額
公営住宅建設資金	16.1	16.0
国民健康保険	521.1	498.8
後期高齢者医療	45.5	45.3
公園墓地	2.7	2.7
卸売市場	6.9	6.9
用地取得	0.1	0.1
母子父子寡婦福祉資金	0.9	0.7
介護保険	327.5	319.1
公設合併処理浄化槽事業	2.9	2.9
宅地造成事業	3.2	2.7
公債管理	230.7	230.7
合計	1,158.2	1,126.3

※数字は端数処理をしており、数値に整合しない部分があります。

◎ 企業会計 (単位:億円)

会計名	歳入決算額	歳出決算額
水道事業	139.0	124.1
工業用水道事業	0.1	0.1
公共下水道事業	218.4	216.4
農業集落排水事業	10.9	10.9
田野病院事業	9.3	10.8
合計	378.0	362.4

※数字は端数処理をしており、数値に整合しない部分があります。

特別会計

国民健康保険や介護保険など、特定収入(保険料など)を財源とする会計

企業会計

上下水道や病院など、民間企業のように事業の収入で費用を賄う会計

Close up 2

「わたしの想いをつなぐノート」について考えてみませんか?

市では、エンディングノート「わたしの想いをつなぐノート」を配布しています。終末期医療のあり方について、考えてみませんか?

問  
健康支援課  
☎29-5286  
FAX29-5208

◎ 自分らしい終末期を迎えるために

一人一人が、自分らしい終末期を迎えるために、どこで過ごし、どのような医療を受けたいか意識して考えるきっかけとなるように「わたしの想いをつなぐノート」を作成しました。最近では、終末期の延命治療について、本人の意思が尊重されるようになってきていますが、意思が全て伝わっていないこともあります。このノートを通して、自分の終末期を考え、家族やケアをする医療関係者と話すきっかけにしてみませんか。

◎ エンディングノートはアドバイザーが配布

エンディングノートは、エンディングノートアドバイザーが配布し、ノートの書き方を説明します。アドバイザーは市が開催する養成講座を修了した、医師、看護職、薬剤師、ケアマネジャー、社会福祉士、福祉施設の相談員などの資格を持った人たちです。ノートは無料で配布しており、次の2つの方法で受け取れます。

① 出前講座で受け取り

話を聞きたいグループに講座を実施し、ノートを配布します。

【実施日】平日の9時～21時のうち1時間程度(要相談)

【対象】10人以上のグループなど  
【申込】健康支援課に申込書提出

② 窓口で受け取り

職員や専門のアドバイザーが一人一人に書き方を説明してお渡しします。

【窓口】健康支援課(市保健所4階)  
介護保険課(市役所本庁舎5階)  
地域包括支援センターなど

エンディングノートの活用事例を紹介します

1人暮らしで家族もいないKさんの場合

食道がんの治療を受けながら、1人暮らしをしていた75歳の男性Kさん。家族とも縁が薄く、住み慣れた自宅で最期を全うする覚悟でしたが、病気が治癒の見込みがないことも分かっていましたが、万が一意識がない状態で発見されたときに、延命治療は望まないなどの自分の思いを医療側に伝える方法を考えていました。そんな時「わたしの想いをつなぐノート」を訪問看護師から紹介され、「延命治療は必要ありません」などの自分の思いを書き、ノートを肌身離さず持ち歩いていました。その後、自宅で在宅緩和ケアを受けながら静かに息を引き取ったKさん。1人暮らしでも最期の意思は尊重されました。



書き方の手引き(左)とエンディングノート

詳しい情報はココから

